

C-02

FEEL TECH®

-人間拡張基盤を用いた味覚の共有-

着目した世の中の課題

人が伝えたい想いや気持ちは、自覚している顕在意識だけであり、一般的に意識全体の10%程度と言われてます。そこで人と人がより深くわかり合えるようなコミュニケーションをネットワークでサポートできないか？と考えました。

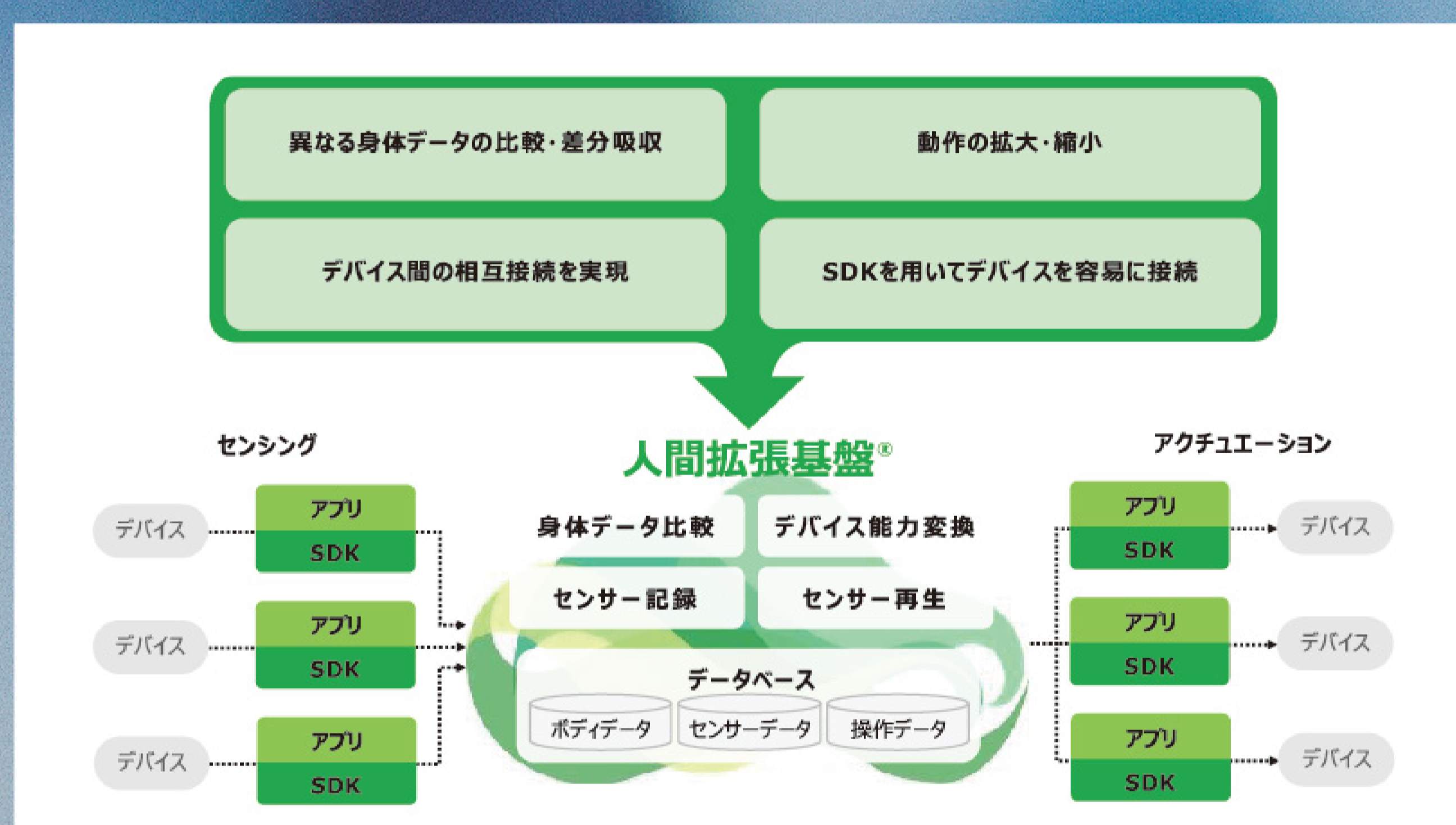
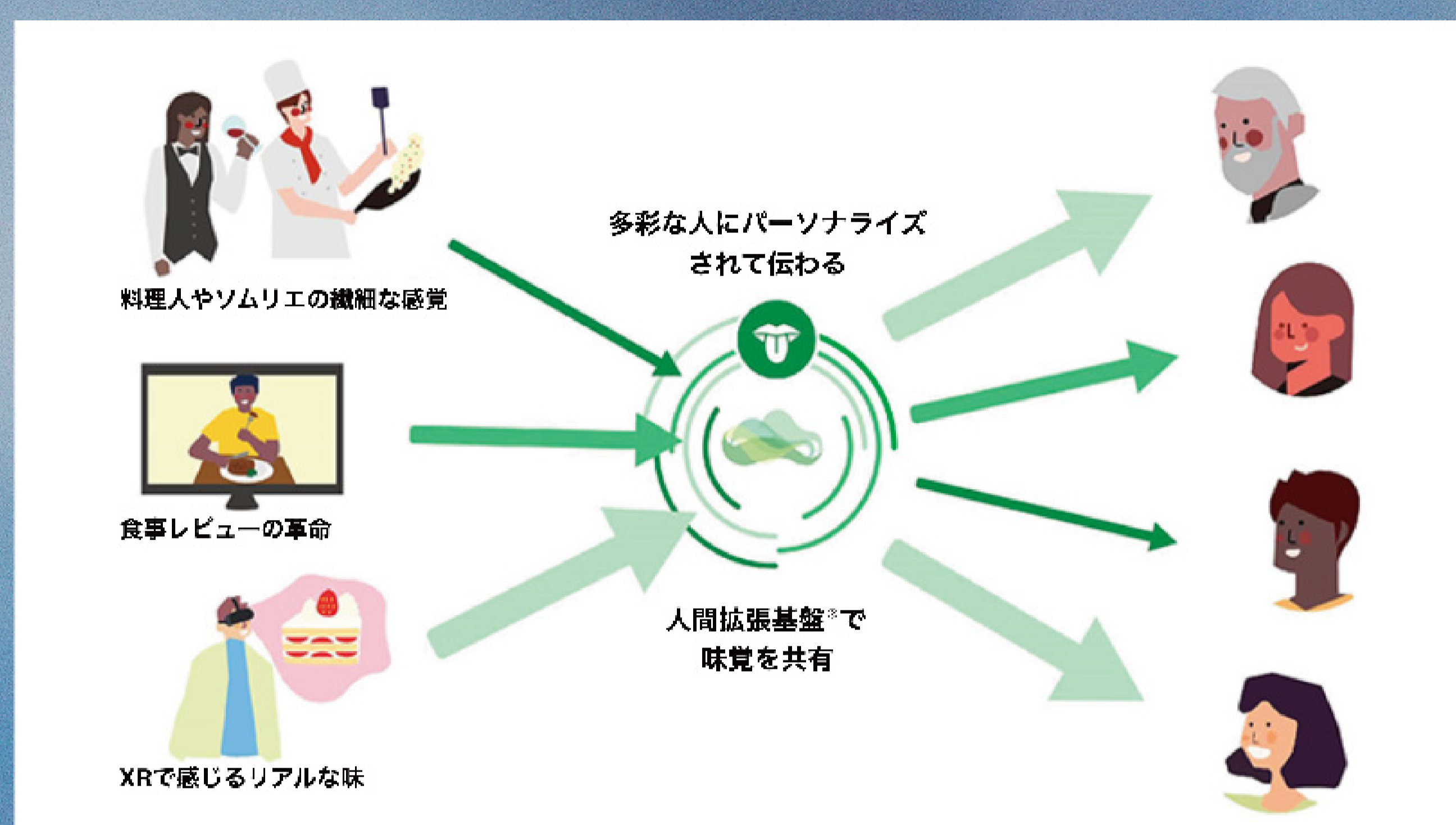
解決となる取組み

概要

本技術は、味覚に関するデータを把握するセンシングデバイス、相手の味覚に合わせた味に変換し共有する「人間拡張基盤®」と、味覚を再現するアクチュエーションデバイスの3つで構成し実現します。具体的には、伝えたい味をセンシングデバイスで分析したものと共有する相手の味覚の感じ方を、約25項目のデータをもとに人間拡張基盤®上で独自アルゴリズムを用いて推定し、それらをアクチュエーションデバイスを通じて、相手に伝えたい味として再現します。

取組みを支える技術

ドコモが開発した「人間拡張基盤®」と、明治大学総合数理学部 宮下 芳明研究室とH2Lが開発した味覚を再現する技術を連携し、相手の感じ方に合わせた味覚を共有する技術を開発。



共創
パートナー

明治大学 / H2L株式会社 / 株式会社NTTデータMSE

SDGs



6G時代のまったく新しいコミュニケーションとして、
メタバース空間や、映画、アニメなどのコンテンツで活用することで、
事業者はより魅力的なコンテンツ提供が可能となり、
ユーザーは臨場感溢れるリッチな体験が可能となります。

伝えたいことが、きちんと伝わる世界へ